

チャレンジ ワークシート①

| | | | |
|----|---|-----|-----|
| 名前 | 組 | 月 日 | 正答数 |
| | 番 | | |
| | | | 8 |

●総合問題にチャレンジして、さらに力をつける。

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔砂漠のオアシスで『芭蕉俳句集』を読んでいた筆者に、トウアレグ人が話しかけてきた。〕
 彼らはフランス語と片言の英語をしゃべる。ぼくは弱^①った。が、無理をして「古池や蛙
 飛びこむ水のをと」を、なんとか訳してやった。みな、うなずいた。どうやら通じたのだ。
 しかし、そのあとがいけなかった。というのは、「それで？」と目を輝^{かがや}かせて、彼らは
 つづきを待っていたからである。

「それだけさ。」と、ぼくは言った。だが、彼らは納得^②しない。蛙が水に飛び込んで水音^③
 がした、ということは了解^{りよう}したのだが、彼らにしてみれば、それはたんなる事実^{じじつ}にすぎず、
 詩などは、とうてい受けとれないからである。ちなみに、サハラにもゲルタ(水場)に蛙
 はいるのである。

「そう、これだけ。」とぼくは答えた。彼らは、くびをふり、どうしても信じられない様
 子だった。そんなのが詩だとは！

なにも、サハラ^④の奥^{おく}だけではあるまい。たぶん、世界中どこへいっても、こうした芭蕉
 の句は同じような反応を引き起こすことだろう。なぜなら、ほとんどの民族は、十の説明
 から一つ^⑤のものを導き出す、というのが普通^{ふつう}なのだから。ところが、日本人は逆に、一つ
 の事柄^{ことばら}から十の情報を得る、いや、得ようとするのだ。

これは俳句にかぎったことではない。日本の会話、日本的叙述、日本的論議、すべてにわ
 たって言えることだ。そこで、日本人は一を言^いって、相手に十の理解を求めることになる。

だが、世界は、こうした日本的な直感的思考とは、ほど遠いところにある。それなのに、
 グローバル・コミュニケーション時代のいまにイタツ^いてもなお、日本人は直感形式のコミュ
 ニケーションですませようとしてしまう。

重ねて言うが、西欧^{せいおう}はじめ、日本以外の文化圏^{けん}では、「一を聞いて十を知る」ではなく、
 「十を聞いて一を知る」のである。それは、理解力が足りない、ということではない。人
 間同士の関係において、それだけ、充分な説明^{じゅうぶん}が重要視^{じゅうじょう}されている、ということなのだ。

言葉をつくして、自分の考えを相手に理解させ、相手からも充分な言葉によって情報を
 得る。それが日本以外の、世界のルールである。この点で、日本はたしかに「異質」だと
 言えよう。では、どうすべきか。

日本人が説明上手になるしかない。いままで一で済ませてきたものを、十の言葉で説明し
 て相手に理解させることだ。言葉の壁^{かべ}は、こうした文化的背景^{ちが}の違いにある。だから、要は、
 ぼくたちが、どれだけそうした差異^さを自覚して、相手に接するか、ということに尽きよう。

(森本哲郎「この言葉！」より)

(1) 奥^アの読み方を、ひらがなで書きなさい。

(2) イタツ^イを、漢字と送りがなで書きなさい。

(3) 弱^①つたとありますが、この「弱^①つ」と同じ活用形の動詞を、次から一つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 本を讀^ミみました。
- 2 決して笑^ワわない。
- 3 早く起^キきればよい。
- 4 失^シ敗^バすることもある。

(4) 納^②得^{トク}の類義語を、同じ段落の文章中から書きぬきなさい。

(5) こうした芭蕉の句は同じような反応を引き起こすとありますが、どういう反応を引き起こすのですか。最も適切なものを次から一つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 芭蕉の句を現地の言語に訳してみても、意味が全くわからないという反応。
- 2 芭蕉の句の意味は理解できても、それが詩だとは受けとれないという反応。
- 3 芭蕉の句が詩だということには納得しても、感動は起こらないという反応。
- 4 芭蕉の句に詠^ヨまれた事実は了解できても、様子を思^{オモ}い描^{エガ}けないという反応。

(6) 一つの事柄から十の情報を得るとありますが、このような考え方を表した言葉を、文章中から五字で書きぬきなさい。

(7) 西欧はじめ、日本以外の文化圏では……「十を聞いて一を知る」のであるとありますが、それはどういうことですか。最も適切なものを次から一つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 理解力が足りないため、相手に対する十分な説明が不可欠だということ。
- 2 人間同士の関係において、言葉をつくした説明が重視されるということ。
- 3 自分の考えを説明するより、相手から情報を得る場面が多いということ。
- 4 文化的背景の異なるさまざまな情報から、一つの情報を選ぶということ。

(8) ^⑥では、どうすべきかとありますが、現代の日本人はどうすることが必要だと筆者は考えていますか。次の□□にあてはまる言葉を、文章中から書きぬきなさい。

の違いを自覚して

になること。

- (1) おく
 (2) 至っ
 (3) 1
 (4) 了解
 (5) 2
 (6) 直感的思考
 (7) 2
 (8) 文化的背景・説明上手

- (5) 前の部分から、サハラでの反応を読み取る。「〜ということ^{りようかい}は了解したのだが、……詩などは、とうてい受けとれない」という部分に着目する。
- (6) 二つあとの段落に「こうした日本的な直感的思考」とある。「こうした」は、「一つの事柄から十の情報を得る」「一を言って、相手に十の理解を求める」という考え方を指している。
- (7) 直後に説明されている。「〜ということではない。……ということなのだ。」という表現に注意する。
- (8) 最後の段落に、この問いに対する筆者の考えがまとめられている。

チャレンジ ワークシート②

| | | | |
|----|---|---|-----|
| 名前 | 組 | 日 | 正答数 |
| | 番 | | |
| | | | 8 |

●総合問題にチャレンジして、さらに力をつける。

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ぼく」は病気で一カ月半休んでいた学校に、いやいや登校してきた。そして、かわいがっている雀の「チー子」をこっそり持つてきて、授業中にえさをあげていた。

「河合、なにをしているのかね。気分でも悪いのか。」

先生の太い声が、突如頭から落ちてきた。うっかり、ほんのわずかな間だけけれど、ぼくは教室にいるのを忘れていたのだった。「ハイッ」と答えて体を伸ばしたとき、チー子が机の上にとびあがったのだ。みんなの視線は、先生の声とともに、ぼくに向けられていた。

「アッ、雀だ。」

隣席の芳三が叫んだ。みんながいっせいに立ちあがる。ぼくはイタチのようにチー子にとびついて、へしまった」と心の中で思う。こういうときは、絶対にあわててはいけないのだ。チー子は転がるように飛びたち、幸子の背にとまった。幸子が悲鳴をあげる。

教室は大騒動になった。ぼくはとび出して、チー子を追う。みんながどっと駆けよって、チー子を捕まえようとするが、机の下を小走りにすりぬけていくので、なかなか捕まらな^①い。チー子は全身の力をふるいたたせてカーテンにとびつき、羽をばたつかせながら、窓硝子の棧にとまった。

外へ逃げだせば、もうおしまいだ。ぼくは心を静めて、ゆっくりとカーテンの下へ行く。うしろでざわめく声やし、二、三人がこちらへ来ようとしているのがわかった。

「みんな、じっとしていてくれ、チー子はきつとぼくのところへ帰ってくるから。だれも動かないで。」

朝礼のときの級長のような張りのある声で、ぼくはみんなにいった。自分でもどきつと^③するほどりっぱな声だった。

級友の視線を一身に浴びて、顔がほてり、足がすこし震えはじめる。

「チー子。降りてこい。外へ行っちゃいかんぞ。チー子。チー子。」

うしろで、充二がくすつと笑った。(チクシヨウ、充二のやつ、あとでなぐってやるから)チー子は二、三步棧を伝ってから、ぼくの声に聞きいるように、頭をかしげた。

ひとしきりうしろが騒がしくなった。「みんな静かに。」先生の声がとどろく。チー子はその声にびくつとして、くちばしを上にあげた。そして、いきなり石が落ちるように、^④ぼくの体につつかつてきた。ぼくはチー子を抱きしめながら、懸命になつて涙をこらえた。^⑤そのとき、授業終了のベルが鳴った。

「大事にしてやれ。しかし、もう雀なんか学校へ連れてくるなよ。逃げるとコマルからなあ。」

近よってきた先生が、おだやかにいった。^⑥「どんなに叱られるかと思つたが、ほんとうにいい先生だ。涙がつうーつと頬を伝い、ぼくは黙ってなんともうなずいた。」

(河合雅雄「少年動物誌」より)

(1) 伸アの読み方を、ひらがなで書きなさい。

ばした

(2) コイマルを、漢字と送りがなで書きなさい。

(3) 捕①まらないとありますが、この「捕まら」と同じ活用形の動詞を、次から一つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 テレビでも見よう。 2 名前を書いてください。
3 食べるものがない。 4 成功すればいい。

「 」

(4) ゆ②っくりとカーテンの下へ行くとありますが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適切なものを次から一つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 チー子をやっと捕まえることができそうなので、心の底からほっとしている。
2 チー子を逃がさないように、動揺どうようする心をなんとか落ち着かせようとしている。
3 チー子が自分のもとから逃げ出したことが悲しく、すっかり元気をなくしている。
4 チー子と自分のことを級友が笑うので、腹立たしさでいっぱいになっている。「 」

(5) ど③きつとするとありますが、どういうことに「どきつと」したのですか。次の□④にあてはまる言葉を、文章中から書きぬきなさい。

自分が、

のある、

な声で、みんなに指示を出したこと。

(6) 石④が落ちるようにはありますが、ここで「石」にたとえられているものは何ですか。文章中から書きぬきなさい。

(7) い⑥ったを、先生に対する敬意を表す表現に書き直しなさい。

(8) 涙⑤をこらえた、涙⑦がつうーっと頬を伝いとありますが、こらえていた涙があふれだしたのはなぜですか。最も適切なものを次から一つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 逃げるかもしれないと思っていたチー子が帰ってきて、すっかり安心したから。
2 先生や級友たちが自分のことをどう見ていたかに気づき、はずかしくなったから。
3 先生が自分の気持ちを理解してくれたことに感激し、張りつめた気持ちがゆるんだから。
4 チー子に対する思いを先生に否定され、くやしきでいっぱいになったから。「 」

- (1) の(ばした)
 (2) 困る
 (3) 1
 (4) 2 張り・りっぱ
 (5) 3 チー子(雀)
 (6) おっしゃった(いわれた)
 (7) 3
 (8)

- (4) 直前の「外へ逃げだせば、もうおしまいだ。ぼくは心を静めて」という部分に着目する。
 (5) どのような声で指示を出したのかをとらえる。
 (6) 「ぼくの体にぶつかってきた」ものは何かを考える。
 (8) 「ぼく」は先生に叱しかられると思っていたのだが、先生は「大事にしてやれ。しかし、……連れてくるなよ。逃げると困るからなあ。」とおだやかにいった。「ぼく」の、チー子を大事に思う気持ちと、捕つかまえることができよかったと思う気持ちを、先生は理解していたのである。そのことに感激して気持ちがゆるみ、こらえていた涙なみだがあふれ出したのである。